

## 2019年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 学校関係者評価委員会概要と評価結果（報告書）

聖マリアンナ医科大学看護専門学校は本校が選任する委員による聖マリアンナ医科大学看護専門学校「第2回学校関係者評価会議」を開催した。今回の委員の選任にあたっては第1回学校関係者評価の結果を受け、多方面から幅広く委員を選任した。結果は「第2回学校関係者評価会議報告書(以下報告書と称す)」として提出された。報告書には現状の課題とともに本校の将来を見据えた多岐にわたる具体的な評価が示された。その内容を報告する。

### 1、第2回学校関係者評価会議の概要

#### 1)開催日時

(1)日時 2020年 2月 25日(火) 13:00~16:00

2)場所 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 7号教室

#### 3)委員(8名)

委員長 聖マリアンナ医科大学病院 副看護部長

委員 <高等学校関係者>

高等学校校長 (2名)

<看護団体関係者>

川崎市看護協会会長

<法人関係者>

法人看護専門学校担当理事

聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター長 統括看護部長護

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部長

聖マリアンナ医科大学呼吸器内科学 学校医

#### 教職員(11名)

学校長 伊藤 泉

副校長 鈴木 昌子

委員 専任教員(4名)

委員外 教務科長(3名)

事務長

書記 (1名)

4) 事前配布資料

- (1) 2019 年度 自己点検自己評価 平均点レーダーチャート (3年間の推移)
- (2) 2019 年度 自己点検自己評価 大項目別結果
  - ①2019年度の点検結果 ②3年間の推移 ③本校の状況 ④分析と対策

5) 当日配布資料

- (1) 平成 30 年度 卒業時到達度アンケート (集計結果)
- (2) 平成 30 年度 カリキュラムアンケート (集計結果)
- (3) 入学志願者・合格者・入学者 (過去 5 年間) 推移
- (4) 看護師国家試験合格率 (過去 10 年) 推移
- (5) 入学・卒業・就職状況 (過去 5 年) 推移

6) 当日スケジュール

時 間	内 容
13:00～13:10	校長挨拶 ・趣旨説明・会議の取りまとめ方・公表について ・参加者紹介
13:10～13:40	2019 年度 自己点検自己評価結果説明・自己点検自己評価基準、スケジュール、これまでの課題と改善点の要約説明
13:40～14:00	休憩
14:00～14:30	学内見学 教室・実習室・教務室など
14:30～15:00	意見交換 ・説明についての質疑応答
15:00～15:40	・本日の評価実施から公表までの進め方 ・意見とりまとめ、公表内容とりまとめ
15:40～16:00	まとめ

## 2、学校関係者評価 報告書

### 1) 学校関係者評価会議の運営について

学校教員による会場設営、進行であった。それらはスムーズであり、委員からの質問、意見について丁寧に説明する姿勢があった。進行については、伊藤学校長から挨拶ののち、趣旨説明、会議の取りまとめ方と公表の方法について説明があった。次に鈴木副校長から 2019 年度自己点検、自己評価結果について説明があった。質疑応答、意見交換の時間ののち、校内案内、そして学校関係者評価委員会委員 6 名（藤原委員、三宅委員、公務で退室）による話し合いを行った。

今年度から、高校関係者の委員 2 名、看護団体関係者の委員 1 名を構成メンバーとしている。新たな視点での意見交換や質疑応答を行い、多角的に評価がされたと考える。

### 2) 配布資料について

会議開催に先立ち、事前に学習ガイドス、実習要領、学生便覧を配布、当日は、学校評価の目的、結果の公表及び学校評価経緯の資料、そのほか追加資料 1～4 まだが配布された。評価では、当日配布された資料も重要であるため、事前配布資料としていただきたい。

### 3) 自己点検自己評価について

聖マリアンナ医科大学看護専門学校では自己点検・自己評価を 2009 年からルールに則って施行している。「看護専門学校における学校評価要綱」に則り、「自己評価」「学校関係者評価」「第三者評価」で学校評価を行い、本委員会では「学校関係者評価」に位置づいている。

自己評価表は、大項目 9 項目、小項目 60 項目によって成り、学校教員によって評価されている。自己点検自己評価大項目平均点では、2017 年からの 3 年間では得点には大きな変化はなく、かつ全項目とも結果は適切であると評価されている。ただし、Ⅲ. 教授・学習・評価過程「14. 教員が授業準備のための時間が取れる体制を整えている」については 2017 年度から B 評価である。限られた人的資源を最大限活用して改善を目指す姿勢は理解ができるが、さらに実現可能な対策を行い、教員の授業準備、ひいては教育内容の洗練に期待したい。

次にⅦ. 地域社会・国際交流「50. 地域のニーズを把握し、社会への貢献を組織的に行っている」については、2018 年度の自己評価点のより 0.3 ポイント下降している。報告書を拝見すると、多くの事業への参加もされている。貴校の機能として何をもって地域貢献とするのか、教員間で話し合い、明確にすることも大切ではないかと思われる。

Ⅷ. 研究「52. 教員の研究活動を保証している」については、紀要の発行、学会参加の努力義務も明記している。金銭的支援についても最大限保証しており、次年度への更なる対策推進を期待したい。

学校における教育理念、教育目的、教育目標は学習ガイダンスに明記されており、どのような看護師を育成し、そのための教育内容、教育方法が明確に示されている。カリキュラムは、100 単位、3030 時間のカリキュラムであり指定規則にさらに 2 単位を加えた内容である。貴校卒業生

の90%以上が高度急性期医療を提供する特定機能病院であることを鑑みると専修学校としてベストな教育内容であると考える。

#### 4) その他

- ◆ 今回提示された自己点検・自己評価についてでは、学校教員によって評価されたものである。本来評価には、顧客からの評価、つまり学校の場合は、学生およびその保護者からの評価も加味された自己評価であるべきだが、学生および保護者からの声を吸い上げるシステムが未整備の様子であった。今後は、学生および保護者から評価を受け、それらも加味した評価を期待する。
- ◆ 自己点検・自己評価結果については、ホームページ等で公開をしているとのことだった。しかし学生および保護者に対し、自己点検・自己評価の必要性とその実施、そしてその結果公表に関する一連の実施状況および情報提供についてどのようにされているのかが不明であった。万が一情報提供をされていないのであれば今後検討をしていただきたい。
- ◆ 全体的にバランスも良く、評価として安定している。しかし社会的背景、前年度の学校関係者評価会などの結果をもとに、今年度は特にどこに焦点をあてて取り組んだのか、その点がわかりにくい。年度目標、重点課題などを明らかにし、取り組むことによって成果がわかりやすいと思われる。
- ◆ 臨地実習は、看護基礎教育において重要なものである。貴校は、隣接する特定機能病院をはじめ法人内で様々な機能をもつ病院での実習を行っている。これは特記すべきことであり、超急性期から病状が落ち着き地域で暮らすという一連の看護を深く学ぶ機会に恵まれていると言える。このような多様な施設で実習を行うことは専門職業人としての大きな成長につながり、聖マリアンナ医科大学看護専門学校で学ぶことの付加価値となるものである。臨地実習の重要性とその実習施設の関連性についてアピールすることも貴校の特徴をより明確にするものであろう。
- ◆ 次に社会人基礎力の育成、あるいは強化についてである。社会人基礎力は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義され、専門職者として必要不可欠な力である。その力の育成あるいは教育的支援について、今後の報告を期待したい。
- ◆ 当日配布された追加資料1~4についてである。この資料は、学生へアンケート用紙として配布、返信された結果と思われる。この結果が学生からの評価とするのであれば、アンケート用紙質問項目の洗練が必須であろう。また各質問項目が自己評価項目のどの評価の裏付けとなるかを明らかにしたうえでアンケート実施をすることを推奨したい。

#### 5) まとめ

専修学校という枠組みのなか、限られた資源を最大限に活用しながら、学校教員が一丸となって教育に取り組む真摯さを強く感じた。今回の説明及び提示された資料等より、貴校は社会ニー

ズを踏まえて目指すべき目標を設定し、それらを達成するための教育を実施していることについて高く評価できる。先に述べた通り、貴校卒業生の90%以上が高度急性期医療を提供する特定機能病院に就職することを鑑みると、教育内容を客観的に評価、改善を継続的に実施していく必要がある。貴校の教育理念に基づいた質の高い看護師育成のため、今回の学校関係者評価委員会報告書を一意見として参考にしていただければ幸いである。

以上